

第三章

研究方法

A. 研究方法

本研究は、今起こっている現象の PASIM 大学における日本語学習者が二日本語の助詞の意味とその機能、日本語の文で使う助詞に関して、理解する能力とその問題を探るために、記述的法を使用するのである。これは、「記述的研究は、そのまま状況又は現象を記述するために行うものである。」という。(Sutedi、2009 : 20) の意見に一致する。

普段は、記述的研究は、問題を取り上げ、研究を行う際、現実に行っている問題に中心する (Sudjana & Ibrahim, 2009: 64)。また、Sudjana & Ibrahim は、記述的研究を行う段階を述べる。質問あるいは整理した問題に答えるために、必要な情報の種類を決めることはその段階の一つである。量的な情報も質的な情報も求めている。

上記の意見に基づき、本研究はその二つの情報を利用する。量的な情報は、能力と問題に関係することについて記述するが、学習者の誤用を分析するためには、質的な情報を利用する。

B. データ源

1. 研究の対象

本研究は、PASIM 大学の日本語学習者から同種のサンプルを収集する。Riduwan (2008 : 55) によると、研究対象とは、研究の問題と関係がある条

件にしたがい、ある地域における対象である。それから、研究対象は有限研究対象と無限研究対象に分類する。有限研究対象は、量的に制限がはっきりしたデータ源があるため、合計を計算できる。しかし、無限研究対象は、データ源の制限を決められないため、割に数字で表せない。

性質的には、「研究対象は同種の研究対象と異種の研究対象にわけられる。同種の研究対象は、要素が同じであるため、量的に合計を問題にする必要がない。異種の研究対象は、データ源が異なる性質、状況があるため、量的にも質的にも制限を決める必要がある。」（Riduwan, 2008 : 55）。

上記の理論に基づき、本研究に相当する研究対象は有限研究対象であり、性質から見れば、サンプルが同じ学科で学習している学習者（PASIM 大学の文学部日本文学学科における日本語学科の学習者）であるため、同種の研究対象に入っている。

2. サンプル

ステディ (2009 : 179) によると、サンプルというのは、データ源に対する代表的な研究対象の一部である。サンプルは、PASIM 大学の日本文学学科における一年生、二年生、三年生の学習者から集める。

C. データ収集技法

1. データ

本研究のデータは、テスト、インタビュー、アンケートである。それらは、PASIM 大学の日本語の学習者に行く。

1. データ源

研究の問題に対して答える必要なデータを受けるためには、PASIM 大学の日本語の学習者における一年生、二年生、三年生の学習者をデータ源にすることに決める。

本研究でデータを収集するために、以下の技法で実施する。

a. テスト

テストは筆記テストである。学習者がどれ程基本的な助詞を理解しているかということに関するテストであるため、アチーブテストを行うのである。

Riduwan (2008 : 105) によると、データ収集手段としては、テストは個人あるいはグループの知識、知能、能力、才能を計る一連の質問又は練習のことである。しかし、アチーブテストは、学習で達成したことを計るために行うテストである。

b. インタビュー

研究を深く分析するために、インタビューを行い、自由インタビューを選ぶ。これは、Riduwan (2008 : 102)が「インタビューは、直接に源から情報を得るためにデータを収集する方法である。対象者からある情報を深く知りたい場合、インタビューを行うのである。」と述べたことに基づく。また、インタビューは、指導インタビュー、自由インタビュー、指導自由インタビューに分類する。

本研究で使用するインタビューは、自由インタビューであり、インタビュアーが対象者に自由に質問をする。

c. アンケート

情報を知り、学習者が基本的な助詞を使い間違えることに影響する要素に関するデータを受け、その基本的な助詞を教えることに相当する解決を見つけるためには、アンケートを配布する。それは、Riduwan (2008 : 99) が「アンケートは、学習者が、現実に相当しなくても、心配することなく、質問紙に答えることにより、ある問題に関する情報を求めるという目的で配るものである。その上、対象者は、その必要される情報を知っている。」と述べたことに一致する。

筆者は、本研究でクローズアンケートとチェックリストを使用する。そのアンケートは、本研究の目的に関係する質問をする。

D. データ分析技法

データは、テスト、インタビュー、アンケートのように実験で使う手段で順番にすることにより本研究でいくつかの段階で収集する。

次は、分析をする段階である。

1. テスト

テストから得たデータは、次の段階で分析し、解釈する。

- a. 各問題の正答と誤答を調べる
- b. 正答と誤答を計算する
- c. 以下の等式で誤答の頻度と割合を計算する

$$P = \frac{f}{x} \times 100$$

P = 誤答のパーセンテージ

f = 誤答の頻度

x = 被験者の数

- d. 誤答の頻度とパーセンテージを表にする
- e. 助詞の誤用を順番にする
- f. 各問題を分析し、解釈する
- g. 学習者の誤用をランクにする

問題の分析と解釈は、理論考察で説明した理論に基づき実行する。

2. インタビュー

インタビューは、テストを行った後で、テストのデータを支持するために実行する。インタビューされるサンプルは、13人である

3. アンケート

アンケートは、PASIM 大学の日本語の学習者に影響を与える要因あるいは助詞の誤用を招く原因という情報とデータを得るために、配布する。

Riduwan (2008 : 99) において、「アンケートは、被験者からある問題に関する完全な情報を探すために配るものである」ということである。本研究では、学習者が答えを選択し答えるため、クロスアンケートを使用する。

本研究では、アンケートは主な手段のテストとインタビューを支える手段である。

被験者として学習者に対するアンケートの質問の範囲は以下の通りである。

アンケートの範囲

	変数	項目	質問数
1.	助詞を教える	a. 助詞の使用を説明する b. 助詞の実例を多く上げる	1 1
2.	助詞について学習者の理解する程度	a. 学習者の同じ助詞を使いわける能力 b. 助詞の誤用	1 1
3.	助詞を教える時間	受ける時間	1
4.	助詞に対する学習者の意見	a. 助詞の使用を理解する b. 日本語の助詞の大切さ	1 1
5.	学習者の助詞を学習する希望	a. 助詞を教える様々な教授法の大切さ b. 助詞を深く理解するために宿題を作る重要性 c. 学習者の理解する程度を計る	1 1 1

アンケートから結果を得たら、答を分析し、解釈する。それを分析し、解釈するためには、次の段階で実行する。

- a. 問題の答を調べる
- b. 答を計算する
- c. 以下の等式で答の頻度と割合を計算する

$$P = \frac{f}{x} \times 100$$

P = 誤用のパーセンテージ

f = 誤用の頻度

x = 被験者の数

- d. 答の頻度と割合を表にする
- e. 各問題を分析し、解釈する

